

# 第六十九回

# 瀬戸市文芸発表会

# 特選作品

お断り  
短歌 一般の部  
近田順子先生選 第一席  
二重投稿のため取り消します

詩

【若山 紀子 先生選】

《一般の部》

孤独な散歩者

大阪府高槻市

打浪 絃一

静寂の支配する町をひとり歩く

街灯が地面にうすら寂しい影を映す

黒い猫が一匹足を横切りふと立ち止まり振り返る

あなたも僕の仲間ですかと

冷たい夜気が静かに首筋からしみ込んでくる

ちよっと前まで残っていた身体の温かみはすでになく

衰えた肺へと続く気管支は弱い咳をいくつも吐き出した

不思議に恐怖はない

この道もこの店も一度は見たことがあるからだ

たしかにこの先にはいつも長く待たされる踏切があるはず

だけどこんなに暗いから電車はもう走っていないだろう

左右にそびえる巨大な団地は見覚えがない

ひよっとして迷ったのか

立ち止まり振り返る

やって来た道は闇の彼方に溶け込んで消えている

そんなはずはない

でも、どうして私はここにいるのだ

尋ねる人は誰もいない

急に不安がこみあげて

「おおい、おおい」と闇に向かって叫ぶ

小さな足音が聞こえる

私には分かる

あれは妻の足音だ

「もう散歩は十分でしょ」

懐かしい声に私は安堵し

ゆっくり声の方に歩いていく

徘徊ではない

孤独な散歩なのだと言わねばならぬ

詩

【若山 紀子 先生選】

《一般の部》

さよなら、世界

東京都文京区

田中 里奈

僕はこんなにも白くて汚れを知らない

母は僕らを取り出す

どこかに色を置き忘れたわけでもなく

昨日はアイコ、今日は僕、明日はハルキ、明後日は知らない

サンタクロースを信じていないわけでもない

母は天使か悪魔か

ただ白くて汚れを知らない

これは僕はどこで死ぬのか

今日は初めての冒険、そして死

ココロココロココロココロ

純白じゃなくなったらもう僕は必要ない

母は悪魔

冒険の意味は純白の卒業

僕に小さすぎる虫を殺せという

冒険に必要なのは世界を受け入れること

ココロココロココロココロ

僕はキッチンとリビングの間で遺言を残す

妹がチョコレート味のクッキーを食べる

兄が裏が真っ黒な靴下を履く

祖母が髪をとかす

ビリビリビリビリビリッ

こんなにも自分は軽かったんだ

父が窓も網戸も開ける

バイバイ、僕

詩

【若山 紀子 先生選】

《小中学生の部》

犬が亡くなった

效範小学校五年

大浦 楓禾

帰ってきたら、愛犬が事故死で亡くなった。

最後まで苦しかったのにえがおだった。

一番好きな場所で亡くなった。

たんじょう日が近かった。

その日の朝にりんごを食べていた。

あまえんぼうで元気、

いつもミーヤキャットのまねをしてた。

ミニチュアダックスで男の子だった。

お母さんがとてもハンサムだと言っていた。

名前はチヨコ太だ。とてもボールが好きだった。

その日は家族みんな食欲がなかった。

とても静かで、チヨコ太のありがたさが全部分かった。

詩

【若山 紀子 先生選】

《小中学生の部》

あつ雨だ！

效範小学校四年

島田 さち

ビツクリぎょうてん急に来た

雨がザーザーうるさいな

本当にビツクリ雨がふって来た

そしてカタツムリが出てきてね。

雨がやんだらだんごむし

かわいいむしもでてきてね

雨がもうやんできてかさをとじて

あるけるぞカタツムリもだんごむしも

出ておいで

雨がまたふってきそう

風さん風さん雲さんをはこんでこないでよ

もう一回の雨はやだ

いそいでかえろう

雨がふってきそう

俳句

【田口 風子 先生選】

《一般の部》

洗はれて光る馬の背若葉風

若楓安産絵馬の太き文字

黴匂ふライブハウスの非常口

《小中学生の部》

わたあめが空いっばいに雲の峰

螢はね暗やみ照らすようせいだ

「また明日」夕焼空に手を振った

【佐藤 美恵子 先生選】

《一般の部》

冴えた夜は星の瞬く音がする

猪肉を置く網棚の沈みかな

薄氷を割って釉薬汲み出せり

《小中学生の部》

紫陽花や雨に打たれて色変わる

ピロティにお腹空かせるすずめの子

雨上がり足跡光るかたつむり

愛知県春日井市

愛知県春日井市

東京都練馬区

静岡市立清水第二中学校二年

品野中学校二年

品野中学校二年

石川 富子

奥山 ひろみ

日出 晴

青島 愛実

川本 あゆみ

水野 稟香

広島県広島市

名古屋市瑞穂区

瀬戸市城屋敷町

カラスの行水

清水 良郎

武田 稜子

静岡市立清水第二中学校二年

静岡市立清水第二中学校三年

静岡市立清水第二中学校二年

鎌田 奈々

根岸 直輝

水野 紗那

俳句

【加藤 かな文 先生選】

《一般の部》

金婚の日に賜りし小春かな

胡瓜もむ男の甘い塩加減

顔寄せて子目高探すガラス鉢

《小中学生の部》

春になる鳥がばたばた風がふく

ピロティにお腹空かせるすずめの子

「また明日」夕焼空に手を振った

【横田 欣子 先生選】

《一般の部》

自転車のかごにイカ天花曇り

少年の大志輝く夏の天

ちよつと見てあとは自肅の桜かな

《小中学生の部》

薰風がつれてきたのは鈴の音

蟬の声心に残し風を待つ

「また明日」夕焼空に手を振った

瀬戸市品野町

東京都世田谷区

瀬戸市白山町

掛川小学校三年

静岡市立清水第二中学校三年

品野中学校二年

掛樋 嗣征

野上 卓

野津 洋子

新井 かなよ

根岸 直輝

水野 稟香

東京都足立区

名古屋市北区

瀬戸市萩山台

小野 みふ

幅 茂

松長 一步

静岡市立清水第二中学校二年

品野中学校二年

品野中学校二年

遠藤 麻綾

古長 ほのか

水野 稟香

短歌

【大塚 寅彦 先生選】

《一般の部》

駅ピアノノ人間模様垣間見る眼瞑る我に楽音残り  
ランドセルが歩いていような子も混じり登校再会の朝の路地行く  
旅の帰路立ち寄る幼き日のわが家かつてと同じ夕闇に沈む

《小中学生の部》

今日こそは覚悟をきめたはずなのに口からでたのは「じゃまたあした」  
パスをうけみんなの思い背に受けて絶対決めるぞ最後のゴール  
照らされて伸びて縮んだ影二つ共に歩いたあの帰り道

【近田 順子 先生選】

《一般の部》

在宅の勤務で妻を発見す一時と四時は韓ドラタイム  
在宅で無駄な仕事を削ったらやるべきことを失った春

《小中学生の部》

よい子とか偉い子とか言わないでプレッシャーで悪くなりそう  
「やれやれ」と言われてもなお勉強ができない僕が情けなくなる  
帰り道くぬぎやコナラあらがしのどんぐりたちといっしょに帰る

瀬戸市きつき台 内田 エミコ

瀬戸市共栄通 尾形 哲雄

茨木県稲敷郡阿見町 宮崎 江月

静岡市立清水第二中学校三年 稲葉 羽那

静岡市立清水第二中学校三年 杉山 春菜

静岡市立清水第二中学校二年 中島 紗葉

尾張旭市東山町 堀井 文博

岐阜県岐阜市 山野 柘榴子

セントヨゼフ女子学園中学校二年 宮口 真緒

静岡市立清水第二中学校二年 望月 太智

光市立光井小学校四年 横道 玄

【松代 天鬼 先生選】

《一般の部》

妻になり家の固有種へと進化  
空襲の話する母こわい顔

千年の瀬戸揺り起こす若き棋士

《小中学生の部》

五月にはテイクアウトをとりました  
マスクだと眼鏡がともくもりだす  
学校がやっと始まりうれしいな

【なかはら れいこ 先生選】

《一般の部》

目薬で揺れてしばらく海の中

瀬戸銀座昭和の意地に出会う所

長考は続くよ月の砂漠まで

《小中学生の部》

振り返り友達が呼ぶ帰り道  
にいちちゃんとけんかするってたのしいな  
生きていて役立つ公式教えてよ

瀬戸市原山台

愛知県尾張旭市

瀬戸市菖山台

品野中学校二年

品野中学校二年

效範小学校六年

高田 桂子

日比野 まりえ

松長 一步

久野 快斗

酒井 優萌

横山 愛

佐賀県唐津市

瀬戸市菖山台

瀬戸市神川町

古賀 由美子

松長 一步

丸山 進

南山中学校一年

效範小学校二年

品野中学校二年

加藤 千晴

小林 とうか

藤巻 沙菜